The Daily MANILA SHIMBUN

(1) 2006年（平成18年）2月22日（水曜日）

避難民への支援開始

日本の医療援助団体

南レイテ州の大規模滑り災害で二十日から現地入りしていた日本の医療援助団体「AMDA」（岡山市）の五人は二十一日、本格的な医療支援活動を始めた。

AMDA登録医で聖隷三方原病院＝静岡県浜松市＝の内科医、薮谷亨さん(36)、聖マリアンナ医科大横浜市西部病院の看護師、竹内美妃さん(33)、AMDA職員の三人。

同チームはこの日午後からセントベルナルド町役場近くにあるクリストレイ地域高校（避難民六百五人）を訪れ、被災者十人を診察した。いずれも風邪などの軽い症状だった。

薮谷医師によると、懸念されているアメーバ赤痢などの感染症が発生したとの情報はないが、「避難民が住む教室は湿度が高く、集団生活なので感染症が発生する可能性はある。家族を失った被災者の精神的ケアを含め、最善の支援方法を検討する」と話した。

同団体は首都圏の薬局などから調達した抗生剤、ビタミン剤、消毒薬、包帯、虫よけのための蚊帳などを避難民に供与する。

二〇〇四年末のインドネシア、スマトラ島沖大津波の被災地を訪れた経験を持つ竹内さんは「津波では負傷者が続出したが、地滑りの場合は生存か死亡のどちらかで、負傷者が少ない」と話した。

土石流から逃げて転び、ひざにけがを負ったジェイソン・マビタドさん(19)は「遠く離れた日本から来て傷を診察してくれた。ありがたい」と語った。父親(51)と祖父(75)が現在も行方不明という。